AI研究の歩み（3回のブームと冬の時代）

AIの研究は、どのような歩みをへて、今に至っているのだろう

第1次ブーム（1950年代後半〜1960年代）

推論と探索

迷路やパズルのような問題を解く

第2次ブーム（1980年代）

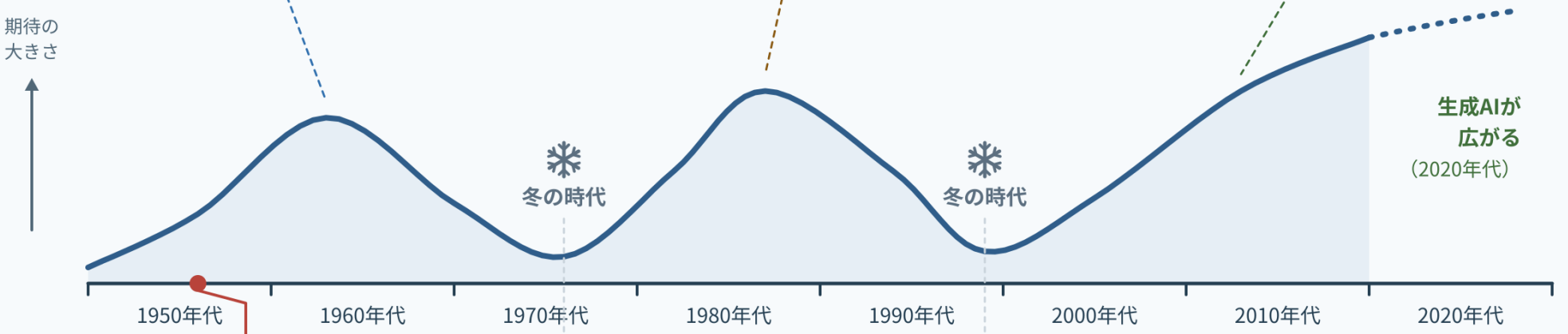
知識

専門家の知識をルールとして与え、判断させる

第3次ブーム（2000年代〜）

機械学習・深層学習

大量のデータからAI自身が学ぶ



1956年

「AI（人工知能）」ということばが提案された

なぜ冬に？（第1次のあと）

現実の複雑な問題は解けなかった

なぜ冬に？（第2次のあと）

知識を人がすべて書いて用意するのが大変だった

第3次ブームの背景

インターネットでデータが増え、コンピューターの計算が速くなった

これまでのブームは、AIへの期待が、実際にできることを上回り、その差が明らかになって終わったとされる。
今のAIについても、できることとできないことを見きわめることが大切。

※ 波の高さは期待の大きさを表す模式で、数値ではない。年代の区切りは資料によって違う。